

2008年11月の大気大循環と世界の天候

大気大循環

月の後半に、北大西洋でブロッキング高気圧が発達・持続した。500 hPa 高度場では、北米大陸からアフリカ北西部にかけて準定常ロスビー波束の伝播に関連した波列状の偏差分布が明瞭だった。対流圏下層の気温も、同領域では500 hPa 高度と同様の偏差分布が見られた。一方、ユーラシア大陸では広い範囲で高温偏差となり、特に中央アジアからバイカル湖付近にかけて明瞭だった。メキシコ湾付近では、対流圏下層の寒気を伴った高気圧の影響を受け、顕著な低温となった。北半球のジェット気流は、北大西洋からアフリカ北部にかけての亜熱帯ジェットが平年より赤道寄りに位置し強く、アイスランド上空の寒帯前線ジェットも強く、両ジェットの分離が明瞭だった。日本付近から北太平洋ストームトラック域における高周波擾乱（移動性の高・低気圧）の活動は平年より不活発だった。

熱帯の対流活動は、インドネシア付近や南シナ海、カリブ海で平年より活発だった。中部太平洋やフィリピン東方海上、東部太平洋の10°N 帯では不活発だった。インドネシアから中部太平洋赤道域にかけての対流偏差分布に対応して、対流圏下層では、インド洋に赤道を挟んだ低気圧性循環偏差の対、太平洋には高気圧性循環偏差の対が明瞭に見られた。このため、西・

中部太平洋赤道域下層では、11月を通して明瞭な東風偏差が見られた。赤道季節内振動に伴う対流活発な位相は、11月中旬から下旬にかけてインド洋から西部太平洋へと東進した。南方振動指数（SOI）は+1.5で、2008年8月以降明瞭な正の値が続いている。

世界の天候

2008年11月の世界の月平均気温年差は、+0.28°Cで、1891年の統計開始以降、第7位の高温となった。

○イベリア半島からモロッコ周辺や、米国南東部からメキシコ南部では、北から寒気が入ることが多く、異常低温となった。

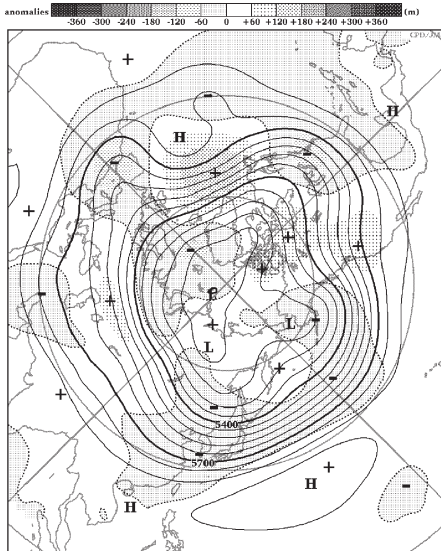
○西～中央シベリアでは、低気圧の通過に伴い、異常多雨となった。

○ベトナム北部では対流活動が平年より活発で異常多雨となり、50人以上が死亡したと伝えられた（IRINによる）。

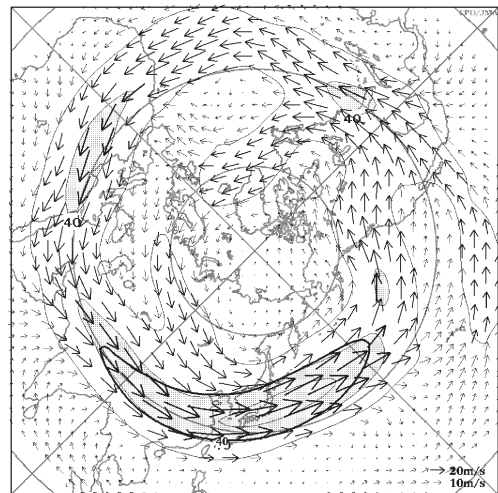
（気象庁地球環境・海洋部気候情報課）

※ より詳細な情報については、気象庁ホームページ「気候系監視速報」をご覧ください。

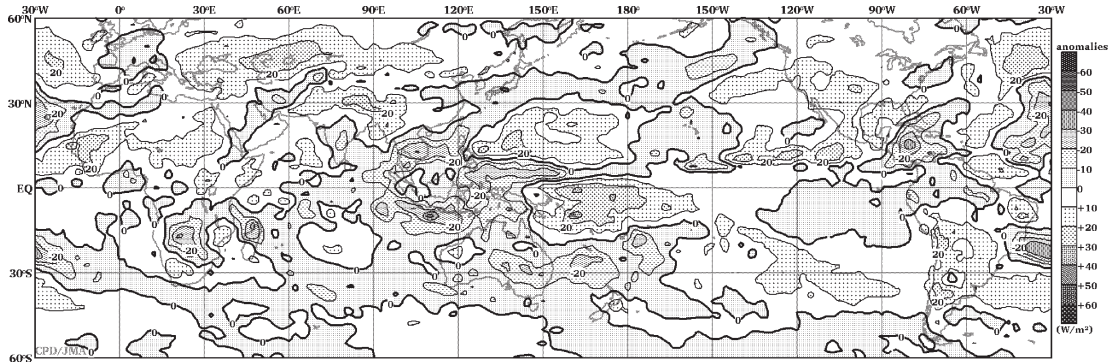
<http://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/diag/sokuho/index.html>



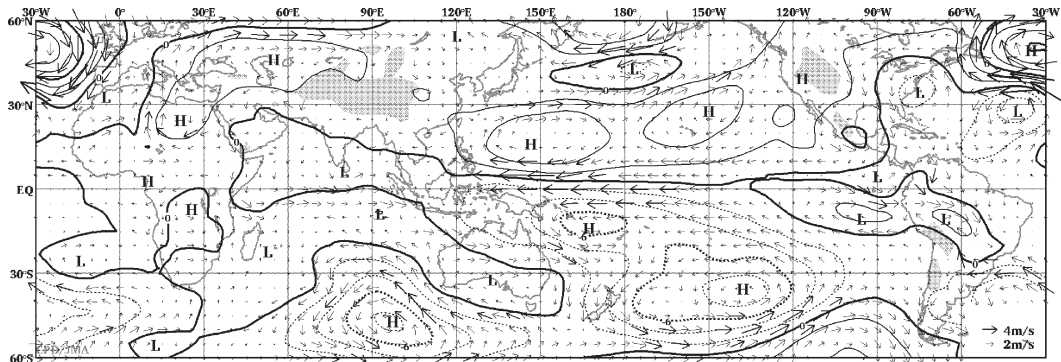
2008年11月の北半球月平均 500 hPa 高度および平年偏差
等値線間隔は60 m。陰影は平年偏差。平年値は1979～2004年のデータから作成。



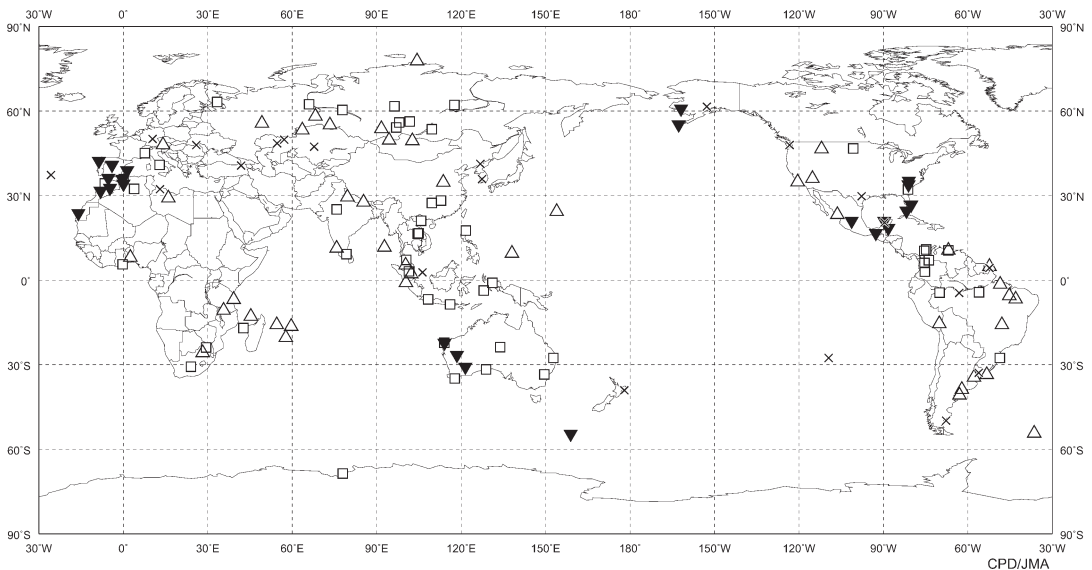
2008年11月の北半球月平均 200 hPa 風速および風ベクトル
等値線間隔は20 m/s。陰影部は40 m/s 以上。太実線で囲まれた領域は平年の40 m/s 以上の領域を示す。平年値は1979～2004年のデータから作成。



2008年11月の月平均外向き長波放射量年偏差
 等値線間隔は10 W/m²で、値が小さいほど対流活動が活発であったと推測される。元データは NOAA。年偏差は1979～2004年のデータから作成。



2008年11月の月平均 850 hPa 流線関数年偏差および風年偏差ベクトル
 流線関数の偏差の等値線間隔は $2 \times 10^6 \text{ m}^2/\text{s}$ 。年偏差は1979～2004年のデータから作成。



2008年11月の世界の異常天候分布図 △異常高温 ▼異常低温 □異常多雨 ×異常少雨
 異常高温・低温は標準偏差の1.83倍以上、異常多雨・少雨は降水5分位値が6および0。